

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290400245		
法人名	サンキウエルビィ株式会社		
事業所名	グループホーム出雲		
所在地	島根県出雲市大社町北荒木1313番地		
自己評価作成日	平成22年8月30日	評価結果市町村受理日	平成22年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・小規模多機能センターを併設しているため、在宅から入所に至る事例に対して、ご本人にとってリロ ケーションダメージが少ない。 ・町内会を継続して行い、自分の意思を伝えたり、共に暮らすことを念頭に、利用者と職員が協力して日常生活を送っている</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou-c.fukushi-shimane.or.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>長年、地域医療に尽力され、信頼されてきた法人が開設した小規模多機能事業所と併設したグループホームである。中国地方にいくつもの介護サービス事業所を抱えており、本部を中心に連携をとりながら、運営されている。事業所を小さな社会と捉え、利用者全員で町内会を作り、毎月交代で会長を決めて話し合っている。共に暮らす実感味わいながら、皆がゆったりと生活されている様子が窺えた。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ワールド測量設計		
所在地	島根県出雲市荻苅町274-2		
訪問調査日	平成22年9月14日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

己 自部外	項目	外部評価	
		自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内
I. 理念に基づく運営			
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者・職員共通の理念を掲げ、共有し実践している。	利用者と職員が共に毎日笑顔で過ごせるように、利用者と職員共通の「私たちの理念」がある。開設当初、全職員で考えた理念であり、共に支え合い暮らしていくうえで大切なことを4つのわかりやすい言葉で示している。広報にも載せて周知に努めている。
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、清掃作業等に参加したり、近隣を散歩したりしながら、交流に努めている。	自治会に加入し、職員が地域の奉仕活動に参加している。又、散歩の時に挨拶を交わしたり、近隣商店を積極的に活用し理解を求めている。事業所の1周年には広報誌を発刊し、バザーの案内と一緒に地域にも回覧して頂いた。バザー当日は、ボランティアの協力や利用者家族と地域の方も来所され、一緒に楽しむことが出来た。
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症研修をしたり、折にふれ共に暮らす姿を見かけていただくことで、発信している。	
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月の奇数月に開催し、意見をいただきサービス向上に努めている。	併設の小規模多機能事業所と合同で定期的開催している。事業所からの働きかけで、消防署からも定期的に参加して頂けるようになり、防災についてのアドバイスを頂いている。呼びかけはされているが、家族の参加は少ない。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	出雲市役所高齢者福祉課と常日頃から連絡をとり、何事も相談している。	プランの書式を変更した時には、市の担当職員にアドバイスを頂いたり、利用者の入所時の相談をしたケースもあった。あんしん支援センターからの依頼で、地域の研修での講師派遣も予定している。
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の意味を理解し、日々努力している。	居室の施錠については、緊急時に避難の妨げともなり、慎重な対応が求められます。施錠によるリスクは、利用者、ご家族に十分説明し、理解と協力を得るようにしましょう。書面での同意確認をお勧めします。
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学び、防止に努めている。	

己 自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家族には制度の紹介を行っているが、支援した事例はまだ、ない。職員に対しては研修計画に入れている。		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前に訪問し重要事項説明書に基づき解りやすい説明を心がけ理解を得た上で契約をしている。		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や要望に対しては管理者を中心に改善に努め、運営推進会議に提案や報をして意見を求めている。	利用者の様子は、主に家族の来所時や電話で伝えている。又、何らかの変化や問題があった場合には、必ず家族に報告し対応を検討されている。12月には、併設事業所と共同で、第一号のホームだより「縁(ゆかり)通信」を利用者家族に発行した。掲載写真から生活の様子が伝わってくる。	昨年度、ホームだよりが1回発行されたきりであり、又、事業所独自で作られていた「町内会だより」も中止されていたことは残念です。事業所から家族へ、定期的に利用者やホーム全体の様子を伝える仕組みを検討されると良いでしょう。家族と職員の信頼関係を深めることで、家族の理解や協力が深まるのではないのでしょうか。
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期ミーティング等で意見を求めると共に、日常的に相談でできるようコミュニケーションを図っている。	職員一人ひとりがチャレンジ目標をたて、半期毎に評価を行っている。更に、個人面談をすることで、職員の要望や提案に耳を傾け、働きやすい職場づくりに努めている。又、課題について職員の意見が書き込みやすい書式の検討にも取り組んでいる。	職員間で情報の共有はされていますが、職員で話し合った会議や研修記録、報告書などには、全職員が必ず確認のサインを残すようにされるとよいでしょう。
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	評価制度を取り入れ、個人の評価を明確にするとともに、個人面談を実施し、職場環境や条件の整備に努めている。		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修や、現任研修を年間を通して実施し、ケアの向上に努めている。		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲地域グループホーム連絡協議会や介護サービス事業者連絡会に所属し、ネットワークの構築やサービスの向上に努めている。		

己	部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内	
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査の段階で本人に面接し現状を把握したり不安や困りごとの聴取に努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込みの相談時から家族の不安や悩みを聴き緊急性の判断や適切なアドバイスや提案ができるよう努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所申し込みの相談時から家族の不安や悩みを聴き緊急性の判断や適切なアドバイスや提案ができるよう努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者主体の町内会を開催し利用者自らが目標や取り組むことを話し合い共に暮すことの意義を感じたり理解していただけるように努めている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々のケアを提供する中で気づきや提案を家族に伝え相談しあうことで利用者や職員の精神的な支えになっていただいたり外出や外泊の協力をさせていただいている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントの段階で尋ねたり、遠方から友人が訪ねてこられる時の支援や、広報や写真を送付したりしている。	家族の協力で、法事や祭り、墓参りなどの外出や外泊を楽しまれる方もある。以前から手紙で交流されていた友人が、遠方から訪ねて来られた際には、駅までの送迎を職員が行った。入院された時に、他の利用者と一緒に鶴を折って家族に届けたりもされている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常に共に暮すという意識を持っていただけるよう助け合う場面を作ったりしながら支援している。			

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も近況を尋ねたり、入院先等に面会に伺ったり、死亡退所後は、自宅へ伺い、家族と思い出を語りあったりして関係を継続できるよう努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者本位のケアが提供できているか振り返り、カンファレンスにおいても本人にとってどうかという視点で考えるよう統一している	利用者が口にされた思いは、そのままの言葉で記録している。利用者で町内会を作り、毎月交代で会長を決め、トラブルがあっても皆の話し合いで解決している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの過程において、本人の生活歴や暮らし方の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人らしさを支援していくために、本人のできないことより、できる力に着目し個別援助計画を立てている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の現状に合わせた個別援助計画は立てているが、本人と話し合うことはできているが、家族とは十分ではない	折に触れ、利用者、家族の意見や要望を伺っている。各利用者の担当職員を決めており、担当者やケアマネを中心に、カンファレンスで利用者の情報交換を行い、計画を作成している。出来あがったものは本人にも説明し、納得の上、出来る方には自分で署名して頂くようにしている。家族には面会時や電話で説明し、同意を得た上で、コピーを渡している。	利用者自身と直接支援方法を話し合っており、了解を得ることが多く、家族には修正したプランを見て頂き、事後承諾となっているケースが多い。家族から日頃伺っている要望をプランに取り入れられてはいますが、家族がプラン作成に参加していることを自覚できるような関わりを工夫しましょう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	わかりやすい言葉を使用し、悪いことだけではなく良いことも記録に残し、共有することに努めている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	単にケア提供するだけの立場ではなく、その時その場で求められる支援に対して柔軟に対応するよう努めている		

己	部外	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議等を利用し本人の意向や悩みの解消に努めている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と常に相談し適切な医療を受けられるよう支援している	看護職員が、日々の体調管理や医療機関との連携を図り、職員に周知徹底を図っている。基本的に、家族による受診を支援しているが、代行や同行受診など柔軟に対応している。近隣のかかりつけ医の場合は往診をして頂く場合もある。	病状の進行具合や予想されるリスクなど家族の知りたい情報を把握した上で、先を見据えた方針を家族と話し合っ て頂きたい。そうすることで、家族の不安も軽減されてくるのではないだろうか。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職やかかりつけ医の看護師に相談し助言をいただいている			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期に連携室や相談員を訪問し退院へ向けて連携を図っている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りのケアについては常に検討しているが、まだ支援に至ったケースはない	状況の変化に応じて、重症化された利用者には、医療面を含めて家族の意向を確認している。看取りのケースは無いが、退所後も面会に行ったり、亡くなられた方のお宅を訪問し、家族と思い出を語り合うなど継続した支援がなされている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急法の受講を行っている			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域住民や地元消防団と避難訓練を実施したり、通報訓練を行っている	年2回の消防訓練が計画されている。今年度は地域の消防署や地元消防団の協力により、夜間想定で1回行われた。町内会長も参加されている。又、消防署の協力で全職員が救命救急の訓練を行っている。	避難、通報訓練は、職員だけでも年2回行いましょう。近隣の住民の参加も継続してお願いしていきましょう。又、備蓄の準備において、災害時など外注の配食機関が使えない時の検討も必要です。	

己	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修を実施し、普段の声がけを振り返ることで常にプライバシー保護に配慮している	個人情報の取り扱いには家族に説明し、書面で同意を得ている。利用者の写真を掲載している広報誌については、利用者家族に別の書面で確認をとり、配慮した上で使用している。全職員がプライバシー保護の研修に参加し、一人ひとりが報告書を提出し、考える機会としている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	町内会で意見を述べたり、日々の援助の中で自分で決めたり納得できるような声がけが支援を行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務や日課を優先せず、その日の利用者の体調やユニットの雰囲気に応じた過ごし方をするよう心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の装いや外出時の洋服を一緒に選んだり理美容を定期的に利用できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備や片付けを一緒に行っている	これまでは、主食と汁物は事業所で作り、昼の副食だけ外注の高齢者向け宅配サービスを利用していた。しかし、調理専属の職員が不在となった為に夕食も外注となった。利用者に応じて食事の形状を変えたり、補食を提供するなど個別に支援している。混ぜ合わせたり、盛り付けは、利用者と一緒にしている。配食には、行事献立やお楽しみメニューもある。誕生日は、その方の希望される献立にしたり、手作りオヤツの日もある。	食事は支援の一貫として、介助する一方でなく、利用者と職員が同じ食卓を囲んで食べる姿勢を持って頂きたい。それによって、利用者も気兼ねせず、共に食べると会話も生まれ、楽しい食事となるのではないのでしょうか。職員と話し合う機会として頂きたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	脱水や栄養不足にならないよう支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後実施している。		

已 自部外	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	シートに記入し一人一人の排泄パターンを確認しながら、トイレで排泄できるよう支援している	排泄は、一人ひとりのパターンを把握し、出来るだけトイレで排泄出来るように支援している。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘は不穏の原因にもなるため、日々、注意し予防に取り組んでいる		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間や曜日を決めず、いつでも入浴できるように支援している	毎日いつでも、利用者の希望で入浴出来る。利用者の体調や気分に合わせて支援している。浴槽のまたぎが困難になられた場合には、併設の事業所にある移動リフトが備え付けられた浴槽を利用出来る。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活のペースに合わせ、自分の意思で休息したり眠れるように配慮している		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認や、新しく処方される薬に関しては情報を確認し理解するよう努めている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	嗜好品等の制限は行わず、趣味や役割が持てるよう支援している		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事を計画したり、好きなときに戸外へ出かけられるようにしている。また家族の外出への支援もあるが、地域の人との協力ではない	季節を意識した外出を心がけている。外出はドライブが多く、併設事業所と一緒に掛ける事もある。気候の良い時は、歩いて事業所の周りを散歩している。職員と個別に趣味の物を買いに掛けることもある。	天候不順などもあり、今年度は外出やイベントが少なかったようです。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせ、短時間でも戸外に出る機会を増やし、心身の活性に努めて頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	全ての利用者ではないが、能力的に可能な方には所持していただいて買い物に出かけたりしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の援助や、個別に携帯電話を使用している利用者の方もおられるので制限せず支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く過ごしていただけるよう配慮している	毎月、利用者が作られる大きなカレンダーは季節を感じさせる。又、利用者町内会で決めた月目標はボードに書いて、目につくように掲示されていた。畳の一角にある棚は、利用者が自由に道具を取り出せるよう、使いやすくなっている。自分のソファをホールに置いてくつろぎ場所にされている方もある。	季節がらか、建物の外回りがやや殺風景に思います。プランターの花や道具など、生活感ある風景で通りがかる方の目をひきつけて頂きたい。又、来所者の目につく場所で職員が休憩される場合、誤解を生じやすい為、注意が必要でしょう。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは思い思いに好きなところで過ごしていただけるよう配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に持参していただいたり、好みものを飾ったりしながら設えを工夫しているが、全ての方とはいえない	利用者が自宅ですべて使っていた馴染みの家具や大事な物を、持ち込んで頂くように家族へ説明している。ベッドから手の届く場所に必要な物を並べて置き、自分が暮らしやすいようにされている方もあり、生活感があふれる部屋もある。その月の町内会長は、居室の入口に札を下げられている。	毎日の居室掃除や洗濯物たみは、利用者の出来る力を尊重しながら、職員と一緒にいられていますが、掃除が難しいベッド下などの掃除や洗濯物の間違いがないかなどは、職員が確認するようにしましょう。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に留意し、家具の配置や動線に配慮している		